

End of Result Set

 Generate Collection

L8: Entry 2 of 2

File: DWPI

Jun 30, 1981

DERWENT-ACC-NO: 1981-59741D

DERWENT-WEEK: 198133

COPYRIGHT 2003 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Yersinia enterocolitica polysaccharide-sensitised blood corpuscles - bonded with fixed erythrocytes via coupling agent, esp. tannic acid**PRIORITY-DATA:** 1979JP-0157909 (December 5, 1979)**PATENT-FAMILY:**

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 56079957 A	June 30, 1981		004	

INT-CL (IPC): G01N 33/54**ABSTRACTED-PUB-NO:** JP 56079957A**BASIC-ABSTRACT:**

Yersinia enterocolitica polysaccharide-sensitised blood-corpuscles where Yersinia enterocolitica polysaccharide is bonded with fixed erythrocytes via coupling agent. Coupling agent is pref. tannic acid but may also be glutaraldehyde or chromium chloride. Yersinia enterocolitica polysaccharide antibody may be detected by contacting sensitised blood-corpuscles where Yersinia enterocolitica polysaccharide is bonded with fixed erythrocytes via coupling agent to human humor or its diluted liquor and observing agglutination image by microtitration method.

Yersinia enterocolitica infects human being and causes various diseases such as ileitis terminalis, appendicitis, erythema nodosum, arthritis, septicemia, hepatic abscess, pulmonary abscess and osteomyelitis. Yersinia diseases may be differentiated and diagnosed at high sensitivity and specificity. Fixed erythrocytes may be produced e.g. as follows: Raw erythrocytes suspended in Alsever liquor are treated with carbon monoxide gas, formalin, is added into erythrocytes to fixtate. Yersinia enterocolitica polysaccharide sensitised to erythrocytes may be any one of Boivin Antigen, glycolipid or alkali polysaccharide and antigen of any one is specific antigen in serum form of Yersinia and alkali polysaccharide give most highest antibody value.

Those polysaccharides inhibits specificity to serum form of Yersinia and does not inhibit common antigenicity with other bacteria sensitised to fixed erythrocytes.

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
⑪ 公開特許公報 (A) 昭56—79957

⑫ Int. Cl.³
G 01 N 33/54

識別記号 庁内整理番号
7906—2G

⑬ 公開 昭和56年(1981)6月30日
発明の数 2
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ エルシニア・エンテロコリティカ多糖体感作
血球およびこれを用いるエルシニア・エンテ
ロコリティカ多糖体抗体の検出方法

東京都練馬区大泉学園町163—

2

⑮ 出願人 株式会社相互生物医学研究所
東京都中野区中央4丁目25番10

号

⑯ 代理人 弁理士 若田勝一

⑰ 特願 昭54—157909

⑱ 出願 昭54(1979)12月5日

⑲ 発明者 富山哲雄

明細書

1. 発明の名称

エルシニア・エンテロコリティカ多糖体感作
血球およびこれを用いるエルシニア・エンテ
ロコリティカ多糖体抗体の検出方法

2. 特許請求の範囲

(1) 固定赤血球にカップリング剤を介してエル
シニア・エンテロコリティカ多糖体を結合さ
せて成るエルシニア・エンテロコリティカ多
糖体感作血球。

(2) カップリング剤がタンニン酸である特許請
求の範囲外：項記載のエルシニア・エンテロ
コリティカ多糖体感作血球。

(3) 固定赤血球にカップリング剤を介してエル
シニア・エンテロコリティカ多糖体を結合さ
せてなる感作血球をヒトの体液もしくはその
希釈液と接触させ、マイクロタイマー法によ
つて凝集像を観察することを特徴とするエル
シニア・エンテロコリティカ多糖体抗体の検
出方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、赤血球にカップリング剤を介して
エルシニア・エンテロコリティカ多糖体を結合
させて成るエルシニア症受身血球凝集反応用感
作血球およびこれを用いるエルシニア・エンテ
ロコリティカ多糖体抗体の検出方法に関するも
のである。

エルシニア・エンテロコリティカ (*Yersinia enterocolitica*, 以下エルシニアと略記する) は
腸内細菌に属するグラム陰性の桿菌で、ヒトに
感染して、終末回肠炎、虫垂炎、結節性紅斑、
関節炎、敗血症をはじめ、時には肝臓炎、肺膜
瘍、骨髄炎などを起こす。本菌の感染症すなわ
ち、エルシニア症の病型は広範囲且つ極めて多
彩であり、特有の臨床所見を示さない疾患であ
る。従つて、エルシニア症を診断する為には、
エルシニアの分離又は血清学的検査法にたよら
なければならぬ。このうち、細菌の分離は危
急性期の化学療法前に行なわないとほとんど分離
することができないこと、又、本菌が好冷細菌

であり且つ希臘の遅い細胞である為に、必ずしも癌細胞に検出できていない。又、血清反応としては、加熱又はホルマリン死滅を用いる凝集反応が多く用いられているが、この方法は感度が十分でない点の他に、エルシニア菌の有する腸内細菌共通抗原に対する抗体によつても感度がおこる為、特異性において劣る欠点があつた。

しかし、本明の多糖体は型特異的であつて、他の細胞と交叉することがない特異抗原であることがよく知られているので、エルシニア抗体測定の為に感作の抗原であると云える。

本発明者は上記した従来のエルシニア症診断法における欠点を克服すべく既報研究を行なつた結果、赤血球にカップリング剤を介してエルシニア型特異抗原である多糖体を結合させた感作血球を行い、受身血球凝集反応により、高感度でしかも特異的にエルシニア症を鑑別診断することが可能であることを見出し本発明を完成するに至つた。

(3)

も高い抗体価がえられる。これらの各抗原の調製法はすでによく知られている通りである。すなわち、Balvin 抗原は、脂体を氷冷下でトリクロール酢酸で処理し、遠心上清のエタノール沈殿として得られる。糖脂質は脂体から約 70°C でフエノール抽出し、遠心して、その水層より精製できる。アルカリ多糖は 0.25N のカセイソーダ中で多糖体を抽出し、更に、エタノール沈殿、アセトン沈殿などによつて精製される。この他、EDTA (Ethylene diamine tetra acetic acid, sodium salt) によつても抽出される。

これらの多糖体はいずれもエルシニアの血清型に特異性を示し、他の腸内細菌との共通抗原性を示さず、しかも固定赤血球によく感作することができる。

本発明の感作血球を製造するには次の様に行なう。すなわち、カップリング剤を用いて赤血球を鴉蝶し、カップリング剤処理血球（赤血球表面にカップリング剤が結合した赤血球）を得これにエルシニア多糖体を含む液を接触させて

本発明の目的は、¹に赤血球にカップリング剤を介してエルシニア多糖体を結合して成るエルシニア症診断用感作血球を提供することであり、²にこれを用いたエルシニア多糖体抗体の検出方法を提供することである。

本発明の感作血球に用いる赤血球は固定赤血球であるが、これに用いる赤血球はヒツジ、ヤギ、ウシ、ウマ、モルモット、ニワトリ、七面鳥、ヒトなどから従来の方法に従つて得られる。固定赤血球は例えば次の様にして鴉蝶される。すなわち、アルセバー（ Alsever ）液に懸濁させた生赤血球を一液化炭素ガスで処理し、この赤血球にホルマリンを加えて固定を行なう。カップリング剤としてはタンニン液、グルタルアルデヒド、塩化クロムなどが使用できるが、中でもタンニン液が好ましい。

赤血球に感作するエルシニア多糖体はボアバン抗原（ Boivin Antigen ）、糖脂質、アルカリ多糖体のいずれでもよく、どの抗原もエルシニアの血清型特異的抗原であるがアルカリ多糖は最も

(4)

エルシニア多糖体感作血球を得る。かくして得られた本発明の感作血球を長期に亘つて保存するには感作血球を保存液中に懸濁させて保存してもよく、あるいは保護剤を含む液体と共に凍結乾燥して、凍結乾燥品として保存してもよい。凍結乾燥品の場合には使用に際しては感作血球に希釈剤を加えて溶解する。

赤血球をカップリング剤で処理することなく抗原と接触させた場合には赤血球に抗原が結合しないこと、本発明の感作血球がエルシニア抗体に対し特異的に反応して血球凝集を起すが、末感作血球は反応しないことからも本発明の感作血球は赤血球にカップリング剤を介してエルシニア多糖体が結合したものであると言える。

本発明の感作血球を用いたエルシニア症の診断は、本発明の感作血球浮遊液をヒトの血清もしくはその希釈液と接触させ受身血球凝集反応に基づく腎底凝集像を観察することにより行なうが、手法としてはマイクロタイマー法によるのが最も好ましく、本発明の感作血球を用いた

(5)

-288-

(6)

マイクロタイマー法によれば、(1)手技が極めて簡単であり；(2)わずか1～2時間で判定が可能；(3)感度が低いという利点がある。すなわち本発明は、従来エルシニア症の診断に用いられたことのない固定赤血球による受身赤血球凝集反応用感作血球およびその製造法を提供し、本発明の感作血球を用いた診断法によつてエルシニア多糖体抗体の検出を高感度迅速にし、患者の診断を容易にしたのはもちろんのこと引いては、ヒトの抗体測定によるエルシニア症の流行状態など公衆衛生上、疫学上の要請に応えることができる他期眼切れの感作用血液から特異的血清凝集法用のガムマーグロブリン製剤を調製する時の抗体スクリーニングにも有用である。エルシニア多糖体を固定赤血球に感作した例は文献未載であり、これを用いる受身赤血球凝集反応は全く新規なものである。以下、実施例を示して本発明をさらに詳しく説明する。

(A) 抗原の調製

1) ポアパン抗原の調製

(7)

3) アルカリ多糖の調製

10gの乾燥菌体を200mLの0.25N NaOHに懸濁し、56℃5時間抽出した後遠心して上清を採り、冷却後エチルアルコール2.5容を加え、一夜氷室において後遠心して沈渣を擗め、アセトン洗浄をした後乾燥し、これを0.25Nトリクロール酢酸に懸濁し、氷室に3時間保つ後遠心して上清をとり、pHを中性とした後、エタノール沈殿、およびエタノール抽出を行なつてアルカリ多糖をえた。

(B) 固定赤血球の調製

ニワトリから得られた新鮮血液にアルセバー(Alsever)液を等量加え、フラスコ中で都市ガス(COガス含有)を30分間ふき込んだ後直ちに固定液(5%のクエン酸ソーダを加えた生理食塩水+3.7%ホルマリン(容積比29:1)]を等量加え、37℃の定温器中で24時間放置するが、この間時々振とう

ミュラーハントン寒天(Mueller-Hinton Agar)で30℃4日間培養したエルシニア・エンテロコリティカ3型菌の菌体を擗めて生理食塩水で3回洗浄し、100℃30分加熱した後、減圧で乾燥し、菌体を得た。この菌体を氷冷した0.25Nのトリクロール酢酸に懸濁し、3時間氷冷し乍ら抽出し、遠心して上清を分取した。この上清にエチルアルコール2容を加え、一夜氷冷後沈渣を分取し、水に対して透析した後遠心して上清をポアパン抗原とした。

2) 糖脂質の調製

乾燥菌体10gを70℃蒸溜水200mLに懸濁し、これに70℃加熱した90%エタノール200mLを加え、15分反応させた後、冷却し遠心して上清の水層を分取し、これを水に対し3日間透析した。3,000 rpm 30分遠心した上清を30,000 rpm 5時間遠心して沈渣をとり、糖脂質を得た。

(8)

する。その後純水で5回、生理食塩水で5回洗浄する。ナトリウムアジドを0.1%加え pH 7.2のリン酸緩衝食塩水に10%になるよう固定赤血球を懸濁させ氷室に保存する。この固定赤血球は1年以上安定であった。

(C) 感作血球の調製

前記(A)において得られた固定赤血球を2.5%含むリン酸緩衝食塩水(pH 7.8, 以下PBSと称す)に1:100,000のタンニン液/PBSを等量加え、37℃で15分間タンニン液処理を行なつた後、PBSで1回洗浄し、原量のPBSに懸濁させてタンニン血球液を調製した。このタンニン血球液に等量の、前記(A)において得られた抗原液を加え、37℃で30分間処理した後、PBSで1回、pH 7.2のPBSにBSA 1%, NaN₃ 0.1%を加えた希釈液で1回洗浄し原液の半量の凍結乾燥粉(上記希釈液にクリシン0.5%, デキストラン(和光純薬、分子量200,000～300,000)0.7%を

加えたもの]に懸濁し凍結乾燥する。
 本反応を従来の凝体凝聚反応と比較すると次の通りである。
 抗体はエルシニア症患者血清である。

反応	抗体価
受身血球凝集反応、ポアパン抗原	1:6400
猪脂質	1:12800
アルカリ多糖	1:25600
対照(未感作)	1:40以下
凝体凝聚反応	1:800

上記のようにこの血球凝集反応は従来行なわれている凝体凝聚反応に比較して、ポアパン抗原で8倍、猪脂質で16倍、アルカリ多糖で32倍の感度を示し、又、未感作の対照血球では完全な陰性を示した。

特許出願人 株式会社 相互生物医学研究所

代理人弁理士 若田勝一

(11)